

平成 29 年度 地域づくり海外調査研究事業調査報告書

滞在時間の増加を考える

～スペインバスク地方の農家民泊を参考に～

調査地：スペインバスク地方

調査日：平成 29 年 10 月 10～18 日

一般財団法人 地域活性化センター

総務企画部 移住・交流推進課

藤井 勇輝

日 程 表

日数	月 日	都 市 名	摘 要
1	平成 29 年 10 月 10 日 (火)	東京（羽田） 発 ロンドン 着 ロンドン 発 ビルバオ 着 ビルバオ 発 サンセバスチャン 着	●移動
2	10 月 11 日 (水)	サンセバスチャン	●サンセバスチャン事務局 ●バスククリナリーセンター
3	10 月 12 日 (木)	サンセバスチャン 発 アモレビエタ＝エチャノ 着	●Nekatur（アグロツーリズム協会） ●Ibarra（農家民宿宿泊）
4	10 月 13 日 (金)	アモレビエタ＝エチャノ	●Ibarra インタビュー、宿泊
5	10 月 14 日 (土)	アモレビエタ＝エチャノ 発 ビルバオ 着	●移動
6	10 月 15 日 (日)	ビルバオ	●グッゲンハイム美術館
7	10 月 16 日 (月)	ビルバオ ムンギア	●ビルバオインターナショナル ●ムンギア市役所
8	10 月 17 日 (火)	ビルバオ 発 ロンドン 着 ロンドン 発	●移動
9	10 月 18 日 (水)	東京（成田） 着	●移動

目次

1. はじめに

(1) 邑南町の概要

(2) スペインバスク地方について

2. Nekatur (アグロツーリズム協会)について

(1) 概要

(2) 取組内容

(3) 農家民宿の特徴

(4) 課題

3. 農家民宿事例 Ibarra について

4. まとめ

5. おわりに

1. はじめに

(1) 邑南町の概要

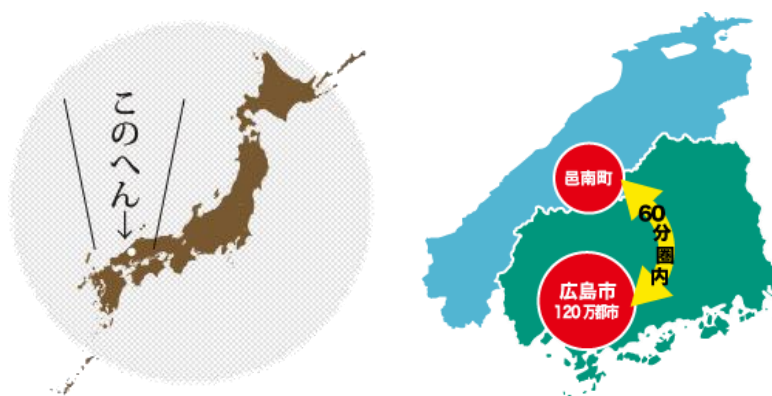
邑南町は、島根県中南部に位置し、山間部に盆地が広がる地域である。人口は 11,004 人で高齢化率は 43%の町である（平成 29 年 11 月末現在）。

平成 23 年度から「A 級グルメ立町」を掲げ「食」でのまちづくりを行い、現在では、国の評価やメディア露出が増えたこともあり、隣の広島県を中心に毎年約 90 万人の観光客がある。邑南町の「A 級」とは高級かつ高品質ということではなく、「ここでしか味わえない食や体験」を示している。住民一人一人が丹精を込めて作った農産物や町独自の伝統、文化、暮らし等は「ここだけのもの」ということを「A 級」と定義し、町の PR や住民の誇りにつなげている。

「A 級グルメ」のまちの拠点となっているのが、地産地消イタリアンの「AJIKURA」である。公設民営で一流シェフを誘致し、運営している。「AJIKURA」では地元農家で作った農産物を見た目も美しいイタリアンにして提供しており、来店客だけでなく、地元農家にも喜ばれている。また、シェフの人材育成も行っており、卒業生達の数人が地元食材を使った飲食店を町内にて営んでいる。

また、「食の学校」という 100 年先の子ども達に郷土料理を伝えていくための施設を立ち上げ、地元の子供達を中心に地元産食材の美味しさや調理実習を通して郷土料理を伝えていっている。

以上のような取組が国の評価やメディア露出につながり、多くの観光客が訪れるようになっている。



（邑南町の位置図 広島市まで車で 60 分圏内である）

「A 級グルメ」のまちづくりを開始した背景は、人口減少と少子高齢化であった。平成 17 年から平成 22 年のわずか 5 年で人口が約 1,000 人減少し、高齢化率 40%も超えた。それに付随して、産業が停滞していった。

そこで、この現状を解決するために基幹産業である農業が活かせる「食」の取組として「A 級グルメ」のまちづくりを開始した。この取組の目的は、①イメージアップ、②交流人口の増大、③滞在時間の増加、④地域経済の活性化・販路拡大、⑤雇用創造・起業家育成、⑥定住促進である。

今までの実績は①、②については、前記のように国の評価やメディア露出から話題を生み、「AJIKURA」や地元産品が購入できる道の駅を中心に多くの来客がある。また、行政視察も年間 200 件以上あり、町の認知度の上昇と「食の町」というイメージアップにつながっている。③については、宿泊実績から判断すると、日帰り客が多い現状がある。④については、①、②の成果もあり、食品を扱う事業者を中心に売上が伸びている。また、平成 28 年に「邑南町東京 PR センター」を秋葉原に設置し、都内を中心に卸業者や飲食店、販売店に邑南町の食品の PR を行っている。平成 28 年度は、9 事業者との取引開始に貢献している。⑤については、前記のシェフ育成研修の卒業生が起業し、年度内に 3 店舗が誕生する予定である。⑥については、定住コーディネーターの徹底した移住者ケアや住民達のウェルカムマインドもあって 3 年連続社会増になっている。



(里山イタリアン AJIKURA 左：内装、右：町内産品を使用したイタリアン)

以上のように、当初の目的のほとんどが達成できている。しかし、③については達成できていないので、滞在時間を延ばしてもらうために「食」はもちろん、「食」以外の邑南町の魅力を知ってもらうような新たなコンテンツをつくる必要があると考えた。

そこで、私が目をつけたのが農家民泊（体験型民泊）の活用である。滞在時間を延ばすためには、宿泊者を増加させる必要があると考えた。町内には旅館が 4 件、民宿が 9 件の計 13 件の宿泊施設がある。また、島根県が実施している「しまね田舎ツーリズム」（登録すれば一定の条件を遵守することによって農家民泊等で体験に関わる食事と宿泊が提供できるというもの）に登録している民泊数は 30 件以上もある。しかし、後者については、ほとんど稼働していない状況である。

農家民泊は町に住んでいるような体験ができることが魅力の 1 つであり、町が掲げる「A

級」と相性が良いと考えられる。私はこれを活用したいと考え、「美食の街」と言われるほど、食でのまちづくりに成功しているサンセバスチャンがあるスペインバスク地方の農家民泊の実態を今回調査した。

(2) スペインバスク地方について

スペインバスク地方は、スペイン北部に所在し、険しい山岳地帯と入り込んだ海岸から成り、世界のどことも類似性のない独特な言語・文化を持つことで知られている。土着愛が強く、公用語もバスク語を推進しており、現地の至るところにバスク語表記の建物等が見られる。

食文化については、「チョコ」と呼ばれる美食倶楽部のようなものが随所にあり、会員達が定期的に集まり料理の腕を披露したり、美味しいと評判の店に行くなど、日々、料理の研究をしている。また、「美食の街」と呼ばれるサンセバスチャンでは、シェフ達が後進育成のため、料理哲学からレシピを全て公開するオープンソース・スタイルを作り上げている。その結果、世界で初めて料理学部がある 4 年生大学（バスククリナリーセンター）の設置やミシュラン星付きレストランが人口比／面積比では、世界で最も多くなる結果につながっている。

サンセバスチャンが発祥の地と言われているピンチョス（食材を串に刺した一品料理）についても、シェフ達が後世に残すため、新しい技術や食材を使い、今の形になっており、住民や観光客や親しまれている。

バスク地方には外食文化があり、休日、平日を問わず、多くの人々が人気店を中心に集まっている。また、梯子酒をする文化もあり、飲み物 1 杯とピンチョスを 2 品いただくと次の店に行く習慣があるそうだ。

農村部では、店長自家製のシードルを樽から直接注ぐことができるレストランや郷土料理を提供しているレストランもある。いずれも住民達の溜まり場になっており、家族、親戚での食事や友人達とカードゲームをしている様子が見られた。ムンギアのレストランでは、迎えにきたタクシー運転手が目的地に着くまで、その店が提供している郷土料理がいかに美味しいかを語っていた。

以上の点から、バスク地方の食文化はシェフ達のおかげもあるが、住民達の文化や生活習慣から現在の繁栄につながっていると感じた。

農家民泊については、スペイン全体の宿泊に占める割合はわずか 18%だが、バスク地方だけで見ると 28.89%と約 3 割が利用している(INE：スペイン国立計局 2016 年度調査より)。この度、バスク地方の取りまとめを行なっている Nekatur（アグロツーリズム協会）と Ibarra という農家民泊の調査を行った。



(ピンチョス)



(樽からシードルを注ぐ様子)

2. Nekatur (アグロツーリズム協会)について

(1) 概要

Nekatur は 1991 年に農家民泊を支援する団体として設立している。元々は農家の若者達がバスク地方の農業や伝統を守るために結成したボランティア団体であったが、団体等を結成する際に活用可能な州政府の補助金を財源として設立している。

従業員は常勤 2 名、非常勤 2 名の 4 名で運営している。

会員制組織であり、会員数は 2017 年 11 月時点で 254 施設（部屋数 2,815）ある。会員になるための条件は、①バスク地方にあること②バスク政府観光局が発行する営業許可証を所持していること、③賠償責任保険に加入していることの 3 点と現地調査を含めた審査によって決まる。

予算については、会費収入、広告費収入、政府補助金で運営している。それぞれの内訳は、会費・広告費収入が 6 割、政府補助が 4 割ということである。

会費は年会費とサイト手数料があり、年会費は部屋数と宿泊料金等で計算されるので事業所ごとに異なる。計算式は「部屋数×平均料金+固定費(130€)」であり、これを 12 月で割り、請求している。サイト手数料は Nekatur が運営している宿泊予約サイト「Nekatur」を宿泊者が利用して宿泊した場合、宿泊費の 5%を徴収している。

政府補助については、農業等に関わる一定の基準をクリアすれば得ることができる。バスク州政府は 20 年前から農業に力を入れており、農業に関わる補助金が増加したようだ。Nekatur もこの補助金の一部を財源とし、運営している。

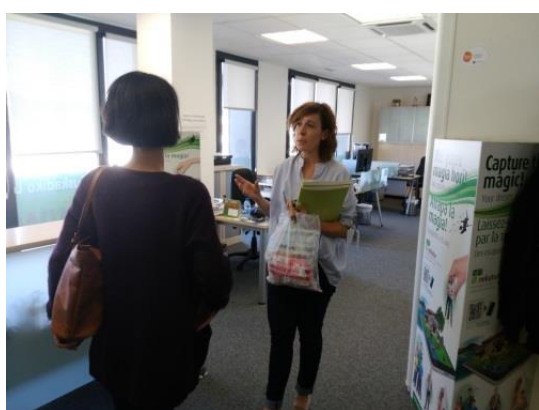
また、バスク地方の農家民泊の特徴は、他の地方と比較すると農業体験やチーズ工場見学等の体験メニューが充実している点だそうだ。

(2) 取組内容

Nekatur の主な取組は宿泊予約サイト「Nekatur」の運営や各種割引サービスの提供、勉強会、交流会等といった会員支援である。

宿泊予約管理サイト「Nekatur」は、バスク地方で最も利用されている民泊宿泊ポータルである。Booking.com やエクスペディアといった他の宿泊予約サイトと連動することができ、オーバーブッキングを防ぐことができる。また、宿泊統計データや口コミのフィードバックも可能であり、州政府等に提出する申告書等の作成もできる。

各種割引サービスについては、ガソリン、保険、銀行、バス会社等のサプライヤーと契約等を交わし、ホストと宿泊者に対しての割引を行っている。



(Nekatur のマネ・コスペダル氏)



(Nekatur のサイト)

勉強会については、サイトの使い方やクレーム対応、他言語、新技術に関する内容等で毎年、春・秋の2回行っている。その他にも CTE (スペイン観光品質局: Instituto para la Calidad Turística Española) が認証している Q マーク (観光品質保証) を取得するための支援や隣のフランスを中心に他国への視察等を行っている。

交流会については、会員同士の情報交換が行われ、そのつながりから自分の宿が満室だった場合等に他会員を紹介するといった交流が生まれている。

その他にも宿泊マップの作成や旅行会社と連携してのパッケージツアーの制作、会員施設の予約対応等も行っており、会員に対して幅広い支援を行っている。

(3) 農家民泊の特徴

INE(スペイン国立統計局: Instituto Nacional de Estadísticas)によると2016年度のスペイン全体での農家民泊利用率は18%であるが、バスク地方は28.89%ある。また、Basquetour(バスク州観光促進機関)とIBILTUR(バスク観光統計局)の統計によるとバスク州を訪れるスペイン人観光客の利用率は8.2%であり、外国人観光客の利用率は3.9%と両者とも低い数値である。これを考慮するとバスク地方の農家民泊利用者のほとんどがバ

スク人であることが分かる。

Nekatur の統計でも 2016 年度の宿泊者数は 523,595 人であり、国籍の内訳はスペイン：460,771 人、フランス：18,703 人、アメリカ：7,621 人の順に多い。スペインの地方別の内訳は、バスク：329,345 人、マドリード：87,467 人、カタルーニャ：77,998 人の順であり、やはり利用者のほとんどがバスク人である。

客層についてはカップル：48%、家族：23%、団体（平均 4 人グループ）：16%の順に多く、年代は、40～49 歳：31.5%、30～39 歳：31.4%、60 歳以上：9.7%の順に多い（IBILTUR の統計より）。また、数値は公表していないが、Nekatur では子連れの家族、団体客（友人、親戚家族など）、カップル、企業という順に高い率を占めているようだ。

滞在目的としては、海沿い周辺を訪問したい（リラックス滞在）：18.2%、ルーラルツーリズム(日本でいうグリーン・ツーリズム)を楽しみたい：16.7%、食事（バスク料理）を楽しみたい：16.4%、自然とのふれあい、アクティビティ体験：14.3%という順に多い。特徴として、子連れの家族の場合は施設内で動物との触れ合いなどの体験ができる所を選ぶ傾向があり、その他には朝食はバラエティに富んでおり、自家製のものも出されるため、朝食を基準に選ぶ方もいるようだ。また、朝食の開始時間が早いこともあり、ビジネスマンが平日利用することもあるようだ（IBILTUR の統計より）。

以上な点から、バスク地方の農家民泊の特徴は、バスクに住む方を中心にカップルや家族等とゆっくりした時間を過ごすために利用されていることが分かる。また、IBILTUR の統計によると、宿泊客のうち 67.9%がリピーターであり、人気も高い。

(4) 課題

バスク地方で需要も人気も高い農家民泊であるが、後継者不足の課題がある。新規開業する若者も増加しているが、今まで運営していた民泊が後継者がおらず辞めており、全体的に減少しているようだ。

この課題に対して、Nekatur は会員との連絡を密に行い、後継者育成の情報発信等を行っている。具体的には政府が主催するイベントに出展し、周知したり、事業者の子どもが継承しない場合はその親戚等に声をかけたりしている。

元々、バスク地方の農業や伝統を守りたいという思いから設立した団体であり、会員達も同じ思いを持っているので、この課題と一緒に向き合い、解決していくことが今後期待される。

3. 農家民宿事例 Ibarra について

Ibarra は Nekatur の会員である。

Nekatur はサンセバスチャンに事務所があるが、Ibarra はサンセバスチャンから西側へ電車で約 2 時間離れたアモレビエタ＝エチャノという場所にある。人口は約 1 万 8 千人とサンセバスチャン（約 18 万 5 千人）の 10 分の 1 である。中心街に住宅やスーパーマーケット等の生活に必要な諸機能が集まっており、少し離れると緑が広がっている。バスク地方の最大都市であるビルバオには車で 20 分と近く、ビルバオの衛星都市であるとも言われている。

Ibarra は中心街から少し離れた位置に所在している。今回、実際に宿泊させていただくとともに、オーナーのマリエン氏からお話を伺った。

農家民泊は一般的に農家が宿泊サービスを行っている印象があるが、マリエン氏は農家ではなく、本業は近所にある乗馬教室の先生だそうだ。民泊を開始したのは 1990 年頃であり、きっかけはバスク州政府が農家の生活水準を保証するということで農業関連の支援に力を入れ始めたからだそうだ。

部屋数は 4 部屋(ツインベッド)あり、エキストラベッドを含めると最大 10 人宿泊できる。従業員はマリエン氏と清掃員 1 人の 2 名である。

内装については、1 階に共同スペースがあり、食事をするテーブルやソファがある。また、繁忙期以外に自由に使用できるキッチンがある。2 階は、宿泊部屋になっており、個室毎にシャワーとトイレが設置してある。部屋も綺麗であり、まるでホテルのようである。



(Ibarra の外装)



(左から 2 番目 : 経営者のマリエン・サンチェス氏)

食事は B&B (bed and breakfast) であり、朝食はヨーグルトとケーキのみ毎日、手作りしている。その他の食品（パンや生ハム等）については、州政府が認証している食品をスーパーマーケット等で購入し提供している。



(内装①)



(内装② 共有スペース)



(朝食)



(アプリから見た予約状況)

予約管理については、「ルーラルフェスト」という「Nekatur」とは別のシステムを使用している。このシステムは「Nekatur」ができる 10 年前から存在しており、「Nekatur」と同様にオーバーブッキングを防げ、申告書等の作成もできるので、マリエン氏は愛用している。実際にシステムを見せてもらったが、タブレットとスマートフォンでも現在の予約状況が確認できるので、外出中でも予約状況を確認できる。

客層については、カップルとビジネス利用が多いそうだ。実際に私達が宿泊した際も 2 組のカップルが宿泊していた。

マリエン氏のやりがいは宿泊者からのフィードバックであり、それが励みになっているそうだ。実際に Ibarra の人気は高く、Booking.com の評価も 10 点満点中 8.7 点と高評価であり、口コミ数も 100 件以上ある(2018 年 2 月 9 日現在)。

工夫している点は、完璧な清掃と建物の装飾だそうだ。清掃については、清掃員が掃除した後、必ずチェックしている。装飾については、自身でアレンジして行っており、建物に合わせた装飾を行っている。

その他に私が一番印象に残ったのは、「なるべく宿泊者に干渉しない」という心がけであ

る。一般的な農家民泊は、農業体験や食事をホストと一緒にすることにより、ホストとの関係が近くなる内容のものが多い印象があるが、マリエン氏は、宿泊者が気を遣わず、ゆっくり過ごしてもらうために、あえて干渉しないようにしている。

実際に宿泊しての感想は、とても居心地が良かった。また、自由に街を散策できるので、様々な発見があり、楽しむことができた。2泊だけではあったが、道や飲食店等の場所を覚えることができ、まるで住人になったような感覚になった。

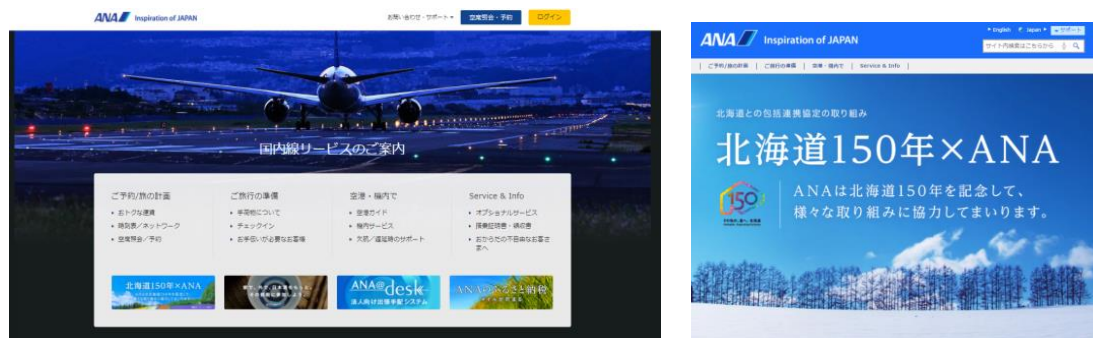
この体験から、体験メニューを用意せずとも、場所と気配りだけで宿泊者は自由に非日常を体験でき、居心地の良い時間を過ごすことができるのではないかと感じた。

4. まとめ

バスク地方の農家民泊を調査して分かったことは、①支援組織がある、②宿泊者のほとんどが同じ地方の人、③カップルや家族でゆっくり過ごす場所、④無理をしない運営の 5つである。

これを邑南町で考えてみると、①については、町内にも農家民泊の取りまとめをしている組織はある。宿泊希望者とホストの間に入り、宿泊をつなげる役割であるが、ホームページがないので、宿泊希望者はこういった場所で宿泊するのか分からないのである。そこを補完しているのは、「しまね田舎ツーリズム」という島根県庁が事務局を担う協議会が運営している「おいでよ！しまね」というサイトである。協議会に登録すれば、任意ではあるがホストをサイト内で紹介をしてくれるのである。また、登録することで、旅館業法や食品衛生法の許可がなくても、一定の条件を遵守することで農山漁村での調理や宿泊が可能になる。しかし、サイト上でネット予約ができない点と運営主体が行政中心なので、どうしても行動に制約がある点が問題である。

この問題を解消するためには、Nekaturのような支援組織を作ることが理想的ではあるが、予算と立ち上げまでに時間がかかることが予想されるので、現在ある組織やツールを活用していくことが薦められる。具体的には、民間の宿泊予約サイトを活用することである。ネット知識があるホストはすでに行っているが、AirbnbやHomeAway、Booking.com等といった民間の宿泊予約サイトに、県または町をあげてホスト情報を掲載する支援を行うのである。必要であれば、運営企業と協定または提携を締結し、サイトの使用方法や見せ方等の指導を行ってもらう。その上で「おいでよ！しまね」や町や観光協会のホームページに宿泊予約サイトの URL リンクやリンクバナーを掲載し、スムーズに予約ができるようにする。また、予算があれば民間の宿泊予約サイト内でも「島根特集」というようなタイトルでバナー掲載してもらい、島根県の農家民泊を周知しても良いと考えた。



(サイトバナー例 出典：全日本空輸株式会社公<<https://www.ana.co.jp/>>)

注意すべき点は、全ての民間宿泊サイトに掲載してしまうとオーバーストッキング等の恐れがあることである。したがって、まずは 1 つの民間宿泊サイトに絞り、掲載していくことが薦められる。

また、現在ある組織単位等で、ホストを集めた勉強会、交流会を定期的に行うことも必要である。情報交換をしていくことで、新しい知識や視野が広がり、発展につながるとともに、ホスト間で切磋琢磨する環境になっていくと考えられる。

②、③については、ターゲットを見直す必要があると考えた。邑南町の農家民泊のゲストのほとんどは教育旅行での利用である。小学生を中心に田舎体験をする目的で利用している。しかし、教育旅行がなければほとんど稼働していない所もあるので、ターゲットを教育旅行だけではなく、広げる必要があると考えた。具体的には、海外も含めた遠隔地から広島県を経由して島根県へ入る旅行者、または、食事や道の駅で買物をする近隣からの来訪者などをターゲットにしていく。

その上でプロモーションを行う場合、前記のようにまず情報発信を行う必要がある。また、前者に対しては、中継地点である邑南町で A 級グルメや田舎体験、農家民泊ができるツアーを設置し、旅行会社等に宣伝することも薦められる。後者に対しては、レストランや道の駅にてチラシ配布等を宣伝することが薦められる。特に道の駅での宣伝については、出品者がホストの場合は商品の袋の中等にチラシ等を入れ、宣伝することも効果的であると考えられる。

いずれにしても、現在、手付かずの状態なので、できる事から一つずつ行っていく必要がある。そのためには、まず、ターゲットを明確化し、それに合わせたプロモーション行っていくことが重要である。

旅行サイト「じゃらん」を運営するリクルートライフスタイルの調査によると 2018 年の旅行キーワードは「健康」という統計が出ており、リラックスやスローフード、マクロビオティックにも関心が高くなっている。邑南町でも、そのニーズに対しての環境や資源は持ち合わせているので、取組次第で今後の交流人口と滞在時間の増加を図ることが可能と考えられる。

④については、運営方法の工夫が必要だと考えた。バスク地方の農家民泊では、どこも B&B であり、朝食も全てが手作りというわけではない。また、必ずしもゲストと密な交流（一緒に食事をしたり、語り合う等）をしておらず、あえて干渉しないように注意しているホストもいる。

日本の農家民泊の場合は、食品衛生法の許可がなければホストは食事を提供することができない。したがって、都道府県で独自の基準を設け、「調理体験」という形でホストと一緒に調理した場合は認めている所もある(しまね田舎ツーリズムもその 1 つである)。ただ、これだとホストとの交流を楽しみたいゲストのニーズには応えられるが、自由に楽しみたい、気楽にゆっくりしたい等のニーズには応えられない。また、ホストの負担にもなってしまう。

この問題に対しては、地域内連携で解決ができるのではないかと考えている。例えば、近くの飲食店と提携し、食事を出前で調達する。また、タクシー会社に飲食店までの送迎を委託する等考えられる。このように民泊で対応できない部分は町内の他業者と連携して運営する方法があると考えられる。また、連携することで、素泊りや食事付、送迎付などゲストが選択できる幅広いプランを提供でき、ゲストの安心につながると考える。

農家民泊＝ホストとの交流ありきと決めつけてしまえば、ゲストの幅広いニーズに応えることが難しい。私個人でも体験や交流をしたいと思う事もあれば、ゆっくりしたいと思う事もある。1 人の人間でさえ、時と場合によって考えが変化するので、その変化に柔軟に対応していくことが求められる。

5. おわりに

私は今回の調査で初めてスペインに訪れた。ヨーロッパ圏に行くのも初めてであったので他の国、地方と比較はできないが、少なくとも私がスペインバスク地方で受けた印象は、とても居心地が良いという点につきる。その理由は、人がとても温かいからである。私達がバス停等で悩んでいると住人が何も言わずに教えてくれたり、飲食店では、初めて日本人が店に来たという事でサービスしてもらったりした。また、農村部の方では、向かい側から歩いてくる人々に「Hola」(オラ「こんにちは」「やあ」)と国籍関係なく挨拶をしてくれることに大きく感動した。

この経験からゲストが、居心地が良いと思ってもらえるような町にすることが滞在時間を伸ばすことにつながると感じた。私は邑南町でもそのポテンシャルがあると思っており、住民体験ができる農家民泊を今後活かしていければと考えている。

2018 年 6 月 15 日に住宅宿泊事業法(民泊新法)が施行される。届出と登録さえすれば、旅館業法の適用を受けずに、住宅にて人を宿泊させることができるようになる(年間 180 日以内の宿泊のみ)。これにより、来たる 2020 年の東京五輪に向けて、東京を中心にホスト

数が増加すると考えられる。

ホストが増加することでどこも似たような形式になってしまいがちだが、邑南町の掲げる「A 級」(ここでもしか味わえない食や体験)の精神に立ち返って、農家民泊を運営することが今後求められる。その上で、私が体験したスペインバスク地方の事例が少しでも参考にし、活かされればと考える。



(左 : Nekatur、右 : Ibarra にて記念撮影)

【参考文献・資料】

- ・『スペイン 美・食の旅 バスク&ナバーラ』
著：菅原千代志、山口純子 2013 年 平凡社
- ・『住宅宿泊事業法』
サイト：国土交通省観光庁（アクセス日：2018 年 2 月 9 日）
<<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/sangyou/juutaku-shukuhaku.html>>
- ・『旅行・観光市場のヒット予測 2018、旅行系 4 社が発表した「人気の旅先」や「トレンド予測」を比べてみた』
サイト：トラベルボイス観光産業ニュース読者層 No. 1（アクセス日：2018 年 2 月 9 日）
<<https://www.travelvoice.jp/20180104-103283>>